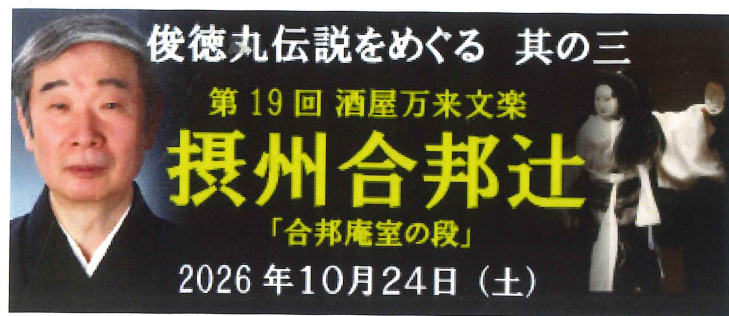




本公演は、三回シリーズの企画「俊徳丸伝説を巡る」の第三弾としてお届けいたしました。シリーズの共通テーマである「俊徳丸伝説」とは、継母の呪いで視力と美貌を失い絶望の淵に陥った主人公が、許嫁の献身的な愛と観音の霊力によって救われるというお話です。大阪の四天王寺を重要な舞台としたこの物語は、まず説経節に現れ、能、浄瑠璃、歌舞伎、落語など、様々な形へ展開されてゆくことになります。この道筋をたどる、特別企画の最終回として今回お届けしたのが、文楽「摂州合邦辻合邦 合邦庵室の段」です。説経節「しんとく丸」や能「弱法師」など先行芸能には登場しない人物を配し、大名・高安家のお家騒動を背景にからますというドラマチックな話の流れはまさに浄瑠璃ならではの、ここに「俊徳丸伝説」のダイナミックな展開を見る思いがします。



舞台には、合邦庵室のセットが組まれています。玉手御前が庵室を訪れる際の木戸と、俊徳丸と浅香姫が控える奥の間、そして登場人物の出入りの都合上必要なものだったのですが、わずか奥行き2メートル余りの空間にこのセットを組むのには、かなりの工夫を要しました。まず下手から俊徳丸を探して実家までやってきた玉手御前が登場します。ここで玉手は俊徳丸への恋心を赤裸々に吐露します。「母様のお言葉なれど、いかなる過去の因縁やら、俊徳様の御事は寝た間も忘れず恋い焦がれ・・・」有名なクドキの場面です。哀切を帯びた浄瑠璃、三味線に合わせた玉手の所作からは、そこはかとなく漂う色気や、下を向いた時の愁いの様子など、生身の人間以上にやるせない女心が伝わってくるようでした。



その後玉手は自分の思いを遂げるために俊徳丸に毒を盛ったと打ち明けます。

義理の息子への恋慕のあまり、嫉妬に狂う玉手の乱行。和生さんの遣う玉手が恋敵の浅香姫と組み合う場面の激しさには息を呑むような思いがしました。あまりに非道な娘に、ついに怒りの刃をつきたてる合邦。その後、手負いとなった玉手が真実を語る場面は、物語の最大の山場となっています。娘の意外な忠義を聞かされ、オイオイと慟哭する合邦。それぞれの心の激流が、織太夫さんの全身からほとばしり出るような浄瑠璃と藤蔵さんの強烈なバチさばきで表現されます。思わず涙ぐむ観客の姿も見受けられました。それほど心が揺さぶられるような感動的なシーンでした。





浄瑠璃 竹本織大夫
三味線 鶴澤藤蔵

人形

玉手御前 吉田和生

合邦道心 吉田玉佳

合邦女房 桐竹紋臣

俊徳丸 吉田玉勢

浅香姫 吉田玉誉

桐竹勘次郎・吉田玉彦・桐竹勘介・吉田和馬・吉田簑悠・桐竹勘昇・吉田玉征・豊松清之助・吉田和登
桐竹勘吉・吉田一大

休憩をはさみ、造り酒屋ならではの蔵出し
限定酒の啗酒をしていただいた後、第二部は
「文楽の手ほどき」です。

吉田和生さんにご登場いただき、演者自ら、
演じる上での苦労や、演目にまつわる興味
深いエピソードを語っていただきました。
後半は会場からの質問に答えるかたちで、
熱気を帯びた舞台の様子とは打って変わり、
終始和やかな雰囲気の中進められました。

